

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農地費 目：農村総合整備事業費

事業名 用排水路・河川落差解消支援事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農地整備課 総合整備係 電話番号：058-272-1111(内4237)

E-mail：c11431@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,000 千円 (前年度予算額：3,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,000	0	0	0	0	0	3,000	0	0
要求額	3,000	0	0	0	0	0	3,000	0	0
決定額	3,000	0	0	0	0	0	3,000	0	0

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

農村地域における水田と農業用排水路と接続する河川までの間、段差等の障害により、魚類の移動に必要な連続性が失われている。

このため、“緑豊かな「清流の国ぎふ」づくり”における施策の1つである“自然生態系の保全・再生”を推進するため、「水みちづくり」として河川～農業排水路～水田の面的な連続性を確保することで、生物多様性や本県の恵まれた水環境を保全する。

(2) 事業内容

既存の水路内の落差（段差）を解消し、本来の河川から水路上流まで魚が往来できる水みちの連続性を確保することで、生態系保全効果（魚類種や魚類生息数の増加）を発現させるとともに、水田において環境配慮米として農業者メリットの発現を期待する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県100% (清流の国ぎふ森林・環境基金事業補助金)

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	3,000	落差解消に必要な工事費等を市町村等が行う経費
合計	3,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

■ぎふ農業・農村基本計画

第6章 将来像達成に向けた取組み

1 基本方針ごとの重点施策と主な取組み

(4) 地域資源を活かした農村づくり

県単独補助金事業評価調書

 新規要求事業

 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	用排水路・河川落差解消支援事業
補助事業者（団体）	市町村、土地改良区 (理由) 農業用排水施設の所有〔管理〕者は市町村、土地改良区であるため。
補助事業の概要	(目的) 生物の多様性を守るため、河川と水田等を往来する魚類等の生息環境を改善する取り組みを支援する。 (内容) 農業用の用排水路等にある落差（段差）を解消するための整備費用等に対して補助する。
補助率・補助単価等	定額 ・定率・その他（例：人件費相当額） (内容) 1施設当たり5,000千円を上限 (理由) 水路内の落差工改良及び魚道設置費用の実績値を参考に上限額を設定している。
補助効果	河川と水田等を往来する魚類等の生息環境を改善する。
終期の設定	終期令和8年度 (理由) 清流の国ぎふ森林・環境基金事業第3期計画の終期とするため。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>生態系保全効果（魚類種や魚類生息数の増加）を発現させ、本県の恵まれた水環境を保全し、地域一体となった環境保全の取り組みを推進する。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H28)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
	①魚類等の生息環境対策に取り組む地区数	0	4	5	6	

補助金交付実績 (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度
	1,451	6,953	0

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>R2年度までに4地区で落差が解消され、生息環境を改善している。</p>
	指標① 目標：4 実績：4 達成率：100%

令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。特になし。
	指標① 目標：5 実績：4 達成率：80%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 2	<p>自然生態系の保全・再生を推進する「水みちづくり」の必要性は高い。 また、本事業により水路内の落差(段差)を解消することで、河川から水路上流まで魚が往来できる本来の水みちの連続性を確保し、魚類の絶滅リスクの軽減や生息個体数の増加が期待されることから、引き続き取り組む必要性がある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価) 2	<p>モニタリング調査の結果、実施地区における魚種数・生息数は増加しており、期待どおりの成果が得られている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている 	
(評価) 2	<p>実施済み地区の事例・効果を検証し、次の取り組み地区に反映させており、効率化が図られている。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 水みちの連続性確保に必要となる落差(段差)解消に係る関連事業との連携は今後も必要となるため、継続的な取り組みが必要とされる。

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 自然生態系の保全と再生に資する「水みちづくり」のため、関係機関と連携を図り、水みちの連続性確保や生態系ネットワークの解析技術を開発に取り組む必要があり、“緑豊かな「清流の国ぎふ」づくり”を推進するための重要な取り組みであることを理解して頂き、本事業への協力をお願いしていく。
